

令和 7 年度 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

- 開催日時：令和 8 年 3 月 19 日 18:30～20:30
- 参加者：阿南市医師会代表、阿南市那賀郡歯科医師会代表、徳島県薬剤師会代表、徳島県看護協会代表・後任、阿南市居宅介護支援事業所代表、阿南市保健福祉部長、徳島県南部総合県民局保健福祉部（阿南）2 名、地域共生推進課職員 3 名、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員 2 名 計 14 名
- 議事録作成者：湯浅 祐司（阿南市在宅医療・介護連携支援センター長）

令和 7 年度 阿南市在宅医療介護連携推進会議 議事要約

1. 令和 7 年度 事業報告および評価の概要

- **会議・研修実績：**
 - 阿南市在宅医療・介護サービス事業所部会の 2 部会を統合し、令和 7 年度から 8 部会で実施し、部会によっては年 3 回開催となるなど活発化。
 - 阿南市在宅医療・介護サービス事業所部会、阿南市在宅医療・介護サービス事業所代表者会、ワーキンググループ会議、ケアカフェも計画通り開催。
 - ケアカフェでは「身寄りのない方の対応」「誤嚥性肺炎」「施設と病院間の連携強化と ACP」などをテーマとし、YouTube で研修動画配信も行っている。吉野川医療センターが見学を訪れ、来年度の連携強化を検討。
- **学生受け入れ：**徳島大学医学生 4 名（うち 1 名が阿南市出身）の病院・福祉事業所見学を実施。
- **成果物と情報提供：**
 - リーフレット配布、各種研修会案内等
 - 阿南市病院・医院情報を医師会ホームページに掲載。
 - 阿南市医療機関連携情報を一覧表形式に変更し、情報が分かりやすくなったと好評。
- **相談記録：**2 月末で 33 件（前年度 63 件）。年未年始の感染症に関する施設からの問い合わせが激減（ゼロ件）し、連携構築の成果と評価。高齢者のみ世帯からの問い合わせは 11 件。
- **住民アンケート結果（市民公開講座参加者対象）：**
 - 健康状態、医療介護相談機関、かかりつけ医・薬剤師の有無、入院時・退院時支援、急変時支援への不安が全般的に改善傾向。
 - 病気になっても自宅で最期まで暮らしたいと希望する人が 80%に増加。
 - ACP 実践への不安は 30%と増加しており、今後の取り組み強化が必要。
- **サービス利用費用一覧：**通所系サービス昼食代、グループホーム居住・食事費用の一覧をホームページに掲載。業務効率化に貢献。

- **各種アンケート調査:**
 - **誤嚥性肺炎に関するアンケート:** 阿南医療センター医師の要望で実施。医療機関と福祉事業所の誤嚥性肺炎理解度に格差があることが判明し、ケアカフェで研修を実施し連携強化に繋がった。
 - **透析患者アンケート:** 阿南医療センターと連携し 107 名に実施。透析患者の送迎が今後の大きな課題となることが判明。
 - **退院支援連絡実施率調査（阿南保健所連携）:** 徳島県退院支援ルール（情報共有ツール）の運用状況調査。管内の介護支援専門員を対象としたアンケート結果、退院支援連絡率は 81.8% で前年度から 7.6% 低下。短期間入院で連絡不要と判断されたケースが増加したことが一因。入院時の情報提供書送付率 83.1% で、双方の連絡の重要性が示された。
 - **ACP の取り組み調査:** 利用者本人の希望把握と医療機関との情報共有を行っているケアマネジャーは 36%。ご本人とご家族の意向の違いによるジレンマや、聞き出すタイミング・方法の難しさが課題として挙げられた。

以上の通り、令和 7 年度の事業報告および評価について説明をし、内容通り承認された。

2. 4 つの場面の取り組みと課題（令和 8 年度テーマ）

- **日常の療養支援:** 独居高齢者・身寄りのない方への対応、認知症施策（見守りキーホルダーの QR コード化、社会資源マップ作成）、医療依存度の高い利用者への対応が今後の課題。
- **入退院支援:** ICT を活用した迅速な情報共有と「顔の見える関係」のさらなる構築が課題。ケアカフェを通じた関係づくりや、MCS（メディカルケアステーション）活用によるリアルタイム情報共有の促進を検討。
- **急変時対応:** 福祉事業所の人材不足（救急搬送時の職員同乗・夜間付き添い負担）が大きな課題であったが、
 - 阿南市消防と協議し、情報提供ができていれば職員の救急車への同乗は基本的に不要とされた。
 - 阿南医療センターと協議し、家族と連絡が取れ、施設に連絡すれば情報共有できる状況なら、検査待ちの夜間付き添いは不要とされた。
 - これらの連携により、福祉施設職員の負担が大幅に軽減されたと好評。今後、阿南市救急キットの再周知や AED がない一般家庭への対応も検討。
- **看取り:** 特養・老健の契約者の約 8 割が見取りを実施しているが、いざという時に家族が搬送を希望するケースもあり、医療側との認識合わせが必要。ACP 推進のため「もしもの時のために」「たま手箱」の普及を図る。また、腹膜透析への移行推進に向け、施設での受け入れ体制（看護師常駐、医療費負担）の課題を検討。

以上の通り、各場面における令和 8 年度の重点課題について、委員による意見交換が行われ、今後の方向性が原案通り承認された。

3. 令和 8 年度 事業計画と組織

- **組織体制:** 変更なし。ワーキンググループ会議において、高齢者お世話センターからの参加者が社会福祉士部会 2 名に変更。
- **ICT 活用推進:** 阿南市では令和 7 年 4 月から「DX 推進委員会」が宮本院長を委員長として発足し、ICT を活用した医療介護連携推進に大きな期待が寄せられている。
 - 既存の ICT ツール（徳島県のバイタルリンク、無料で使用できる MCS など）の比較検討や、効果的な運用ルール（情報共有の粒度やフォーマット化）の策定をワーキンググループで協議していく方針が示された。
 - ICT ツールは、患者・医療介護従事者だけでなく、遠隔にいるご家族との情報共有にも有効であることが強調された。
- **透析患者の送迎問題:** 今後も継続的な課題として、多角的なアプローチで検討を進める。
- **個別避難計画:** 要介護 3-5 以上や障害者などを対象に、居宅介護支援事業所や市を通じて作成を推進。年間約 60 件作成されており、全住民への普及を目指す。
- **連携推進会議の開催:** 来年度も年 1 回の開催を継続。
- **委員の継続と交代:** 委員の皆様にご継続を依頼。徳島県看護協会訪問看護ステーション管理者である岩佐委員が退職し、来年度からは亀居氏（次期管理者）が新委員となる。

以上の通り、令和 8 年度の組織体制および事業計画案について諮られ、異議なく承認された。

4. その他

- リーフレットの QR コードから阿南市在宅医療ホームページやケアカフェの YouTube 動画にアクセス可能で、職員研修にも活用されている。
-

5. 審議結果

議案 1 から 3 の全ての議題について、出席委員より慎重審議がなされた結果、いずれも原案通り全会一致で承認・可決された。

以上

【会議風景】

